

令和 6 年度 学校自己評価システムシート (県立浦和高等学校)

目指す学校像	尚文昌武の理念のもと、時代の求めるリーダーの育成を目指す。
--------	-------------------------------

重点目標	1 互いの信頼関係のもと、自走する生徒集団づくりをととして、目指す学校像の実現に取り組む。 2 生徒に、第一志望はゆずらない、との強い信念を持たせ、全ての職員が授業改善と生徒一人一人の進路実現に取り組む。 3 保護者・県民に対する情報提供をととして、開かれた学校づくりを推進するとともに、浦和高校の良さを積極的に発信する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標			年 度 評 価 (3 月 1 8 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	各年次において「守・破・離」の理念を意識した指導が行われている。 生徒が自分自身の管理(マネジメント)を行い、集団で協力・協働することにより、主体性が最大限伸びるような指導を行う必要がある。	主体性をもって自走する生徒集団づくりをとしたリーダー育成の推進	ア 1年次 学習活動・部活動・行事への参加をととして、浦高生としての主体的に取り組む姿勢を身につける。 イ 2年次 浦高生として、より一層主体的に取り組む姿勢を身につけ、HR会長を中心に支え合い学び合う集団の形成を促す。 ウ 3年次 励まし合い、切磋琢磨し合う生徒集団を主体的に行動する集団へと進化させ、個々の人間的成長を促す。 エ 部活動方針の実施に向けて、各部で短時間で効率的な活動方針を研究する。	ア 学習活動・部活動・行事への参加等に主体的に取り組んだという回答が75%を超える。 イ 浦高生として学校生活に主体的に取り組んだという回答が75%を超える。 ウ 卒業生アンケートで浦高生活をととした人間的成長を感じた生徒が75%を超える。 エ 部活動アンケートで活動に満足と感じた生徒が75%を超える。	ア 学習活動については92%、部活動については94%、行事については98%の生徒が主体的に取り組んだと回答した。 イ 年度末アンケートで、主体的に取り組めたと回答した生徒は95%であった。支え合い学び合う集団を形成することが出来たとの回答は94%であった。 ウ 3年次 卒業アンケートの結果、浦高生活をととした人間的成長を感じたと回答した生徒が97%となった。 エ 部活動アンケートで、満足と感じた生徒の結果は、85%であった。	A
2	以下の観点による授業改革及び教員の経験の蓄積・共有を更に推進する必要がある。 ①生徒が主体的で深く学べる学習機会の提供 ②基礎基本の早期定着と、書く力・考える力・伝える力の育成 ③生徒が主体となった行事運営と行事の精選 ④大学入学後までも見据えた授業内容の高度化 ⑤グローバル化社会を視野に入れた志の育成 併せて、多くの生徒が目指す国公立大学進学を現役で実現させるための学習指導・進路指導が必要である。	(1) 主体的な学習を促す授業改善と行事の弾力的運用の推進	ア 情報活用能力育成や主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善の取り組みを実施し、教員一人一人の授業に反映させる。 イ 生徒の主体的な学習を促すための、生徒による授業評価アンケートを実施し、各教科(科目)による検討会を行い授業改善に生かす。 ウ 生徒が主体的に、達成感をもって行事を運営し、取り組めるよう、行事の精選も含めた環境を整備する。	ア 普段から授業を互見し研究する体制を整え、自身の授業で実践を行う。 イ 授業公開及び授業評価アンケートの結果をもとに各教科で授業検討会を年2回以上実施する。 ウ 卒業生アンケートの「行事の満足度」で満足と答えた生徒が85%を超える。	ア 年間を通じて互いの授業を見学し、全校的な授業改善を推進した。また年間19回の土曜公開、8回の他校視察でも授業実践を公開し、新学習指導要領に基づく質の高い授業作りを行った。 イ 各教科で授業アンケートを実施し、授業検討会の年2回以上実施を目標としたが、5つの教科の達成にとどまった。 ウ 行事の実施、運営について生徒が主体的に関与できた。「行事の満足度」で満足と答えた生徒が93%となった。	B
		(2) 高い志を育成し、進路実現を支援する取組の推進	ア 講演会及び高大連携事業等の充実 イ 生徒の高い志を支援し、進路実現に向けた積極的な行動や挑戦する姿勢を促すための通信を発行および企画の実施 ウ 日々の授業で培った基礎を確認し、考える力を伸ばす企画の実施、学び合い互いに高め合う集団の形成を促す行事の実施 エ 自己を見つめ将来を考えるプログラムの実施 オ 国際交流事業として行うプログラムの内容の充実と、成果の普及を図る。	ア 第一線で活躍されている講師を招いての講演会、大学との連携プログラム及び医師体験の実施 イ 各年次で年12号以上の進路だよりの発行、OB受験体験講話、大学見学会の実施 ウ 共通テストトライアル、入試問題研究会の実施 エ 学部・学科研修会の早期実施、キャリア教育の実施 オ 姉妹校ウィットギフト校への短期派遣、長期派遣の実施。各種団体のプログラムの生徒への周知と募集、実施。	ア 進路講演会では、東京大学総長特任補佐・稲見昌彦教授を招き、「超人をつくる」という演題で御講義を頂いた。順天堂医院およびさいたま市民医療センターの協力のもと医師体験を実施し2,3年次生11名が参加した。 イ 3年次21号、2年次19号、1年次20号の「進路だよりの発行。情報共有と進路意識の高揚を図った。3年次OB受験体験講話を7月に実施した。東大見学会を実施し、9月は2年次生57名、11月は1年次生99名が参加した。 ウ 1,2年次で共通テストトライアルを実施。学力の到達度を確認した。2年次で受験準備講座・入試問題研究会を実施した。入試に向けての意識を高めさせ、本格的な受験勉強開始のきっかけを与えた。 エ 1年次では学部・学科研修会を実施した。OB講話を1,2年次で実施し、先輩の話聞いて、自分の学校生活・将来や受験を考える機会を持たせた。 オ 夏季プログラムとしてWG校6名・スタンフォード大5名、春季WG短期20名の派遣を行った。	A
3	HPや教育活動説明会、土曜公開授業などを通じて情報発信を行ってきた。本校の様々な取組や成果について、より積極的に情報を発信することにより、小・中学校の生徒・保護者をはじめとする県民のニーズに応える必要がある。	積極的な情報提供による開かれた学校づくりの推進	ア 全職員による組織的・計画的な広報活動の展開 イ 教育活動説明会、土曜公開授業等の広報活動の実施 ウ HPを中心とした学校情報提供の機会の積極的な活用	ア 本校の魅力効果を効果的に発信できるように企画立案し、運営する。小学生対象体験教室・保護者向けの説明会を同日に実施する。 イ 本校主催の広報行事(教育活動説明会等)にのべ2000人以上の参加を目指す。 ウ HPのアクセス年間450万件以上、本校以外が主催する説明会への積極的な参加。HP更新頻度を上げ、本校の情報を積極的に発信する。	ア 生徒募集を意識して、予定された広報企画を全て実施するとともに、HP上にてそれらの情報を積極的に発信することができた。小学生・中学生に向けた事業を円滑に実施することができた。 イ 年2回の教育活動説明会(1,170名参加)、小学生特別講座は(196名参加)、年8回の土曜公開授業(1,130組)、中学生部活体験(80名)が参加した。のべ2576名と多くの小中学生及び保護者に浦高の魅力を発信できた。 ウ HPは毎日更新し、アクセスは約580万件(2/1時点)に到達した。部活動の活動方向だけでなく、説明会など行事の告知や、生徒の日常が分かる発信も積極的に行った。	A

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和 7年 3月 19日	
学校関係者からの意見・要望・評価等		
<p>学習活動、部活動、行事のすべてにおいて生徒が主体的に取り組んでいる様子がうかがえる。卒業時には人間的に成長したと感じている生徒がとても多いことが充実した3年間を過ごしてきたことがよくわかる。</p> <p>一方で、悩みや不安を抱えている生徒への対応も養護教諭、メンタルアドバイザーを中心に学校全体で行っており、今後も組織的なフォロー体制の中で進めてほしい。</p>		
<p>授業検討会の実施回数が少ないことが気になったが、日常的に教科内で教材や考査問題の内容だけでなく、授業の進め方等についても話し合われていることがわかった。今後はテーマを決めた上での授業検討会を検討しているとのことだったので、ぜひ授業力向上に向けて実りあるものにしてほしい。</p> <p>達成度はAでもよいのではないかと。</p>		
<p>丁寧な進路指導を行っており、今年の進学実績につながっていると思われる。</p> <p>大学見学会は1つの大学だけでなく、例えば国立大学と私立大学の両方を見学するなどして、より良い選択ができるようにしてもよいのではないかと。</p> <p>大学見学会では見学だけでなく、レポートや感想を記入させ、これらを「進路だよりに掲載し、参加できなかった生徒にもフィードバックしているのはよい。</p>		
<p>今後の生徒募集の対象者をどのようにするか、さらなる検討が必要である。昨今は中学受験をしない小学生がとても多く、受験を決めるのは子供ではなく親御さんであることが多い。これを鑑み、対象者・広報の時期や内容など、広報活動を工夫し、さらに充実させてほしい。</p>		